

- (1) 工事コストの低減
- ③設計方法の見直し

新工法（S G M工法）採用により浚渫土砂を再利用し、材料費を節減

関東地方整備局 京浜港湾工事事務所
横浜港中央地区岸壁（-7.5m）改良工事

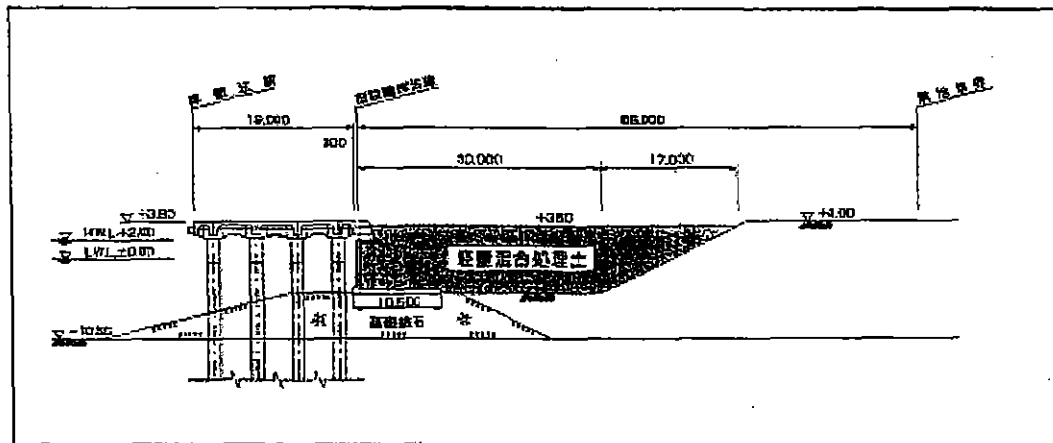
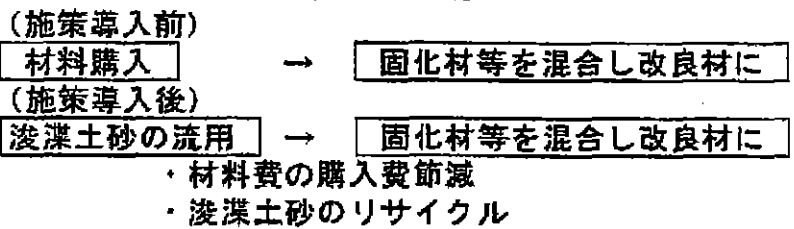
【施策の概要】

- ・耐震強化岸壁に位置付けられている本施設では、地震時の土圧を軽減するためS.G.M軽量土工法（セメント系固化材を用い気泡・発砲ビーズ等を混合）により背後地の土砂置換えを実施しているが、その際必要になる改良土の材料に、近接する横浜港大棧橋地区の地盤改良盛上土砂を使用した。これにより、購入材を用いるのに対し、材料費の節減を図った。

【施策のポイント】

- ・設計段階で建設発生土の再利用可能な工法を採用した事と、同時期に隣接地区で発生する土砂性状が本工法に適していた事で、土砂のリサイクルが可能となった。
- ・本工法では建設発生土を使用するため、常に土量変化率がつきまとう。土量変化率を正確に把握し、工程管理には十分注意する必要がある。
- ・購入材の使用に対し約9%の工事コストの縮減を図った。

【施策の実施状況・イメージ図】



＜軽量混合処理土投入断面図＞

- ・平成11年度横浜港中央地区岸壁（-7.5m）改良工事において、同様に建設コストの縮減を図った。